

ステート・ストリート チャートパック

現在のセクタートレンドを把握するための主要
チャート

2026年2月

目次

01 概要

[セクタースコアカード](#)

[セクターパフォーマンス](#)

[セクターリターン分析](#)

[セクター資金フロー](#)

[フロー・センチメント](#)

[シクリカル vs. ディフェンシブ](#)

02 セクターのマクロトレンド

[景気循環](#)

[マクロモニター](#)

[マクロ注目：金融、エネルギー、素材](#)

[マクロ注目：資本財](#)

03 セクターのファンダメンタルズ

[第4四半期決算結果](#)

[2026年収益](#)

[バリュエーション](#)

[ファンダメンタルズ注目：
情報技術](#)

[ファイダメンタルズ注目：
ヘルスケア](#)

04 セクターのテクニカルトレンド

[テクニカルトレンド & モメンタム](#)

[テクニカル注目：エネルギーと素材](#)

[テクニカル注目：情報技術とコミュニケー
ション・サービス](#)

[セクター相対強度](#)

[セクターオプションポジショニング](#)

[セクターポジショニング](#)

主要セクターの市場テーマ

景気敏感（シクリカル）セクターがパフォーマンスを主導

コモディティ関連セクターがシクリカル優位を牽引し、情報技術は出遅れた

投資家はシクリカルセクターを選好

シクリカルセクターへの資金流入が加速する一方、テック&メディア¹へのフローはマイナスに転じた

生成AIの収益化がコミュニケーション・サービスを押し上げ

AI活用による効率改善や売上成長を背景に、コミュニケーション・サービスは強い決算を受け上昇

資本財はマクロ追い風の恩恵

設備投資の増加、航空機需要の堅調さ、製造業の改善が資本財の追い風となっている

1：テック&メディアは、コミュニケーション・サービスと情報技術セクターで構成されています。

セクター別見通し

6～12か月の投資視点

テック&メディアセクター

コミュニケーション・サービス	ポジティブ
情報技術	中立

シクリカルセクター

金融	ポジティブ
資本財	ポジティブ
一般消費財	中立
素材	中立
不動産	中立
エネルギー	ネガティブ

ディフェンシブセクター

公益事業	ポジティブ
ヘルスケア	中立
生活必需品	ネガティブ

セクタースコアカード 現在の上位と下位3セクター

コミュニケーション・サービスは好調な収益センチメントとモメンタムを維持し、ヘルスケアは魅力的なバリュエーションを背景に価格モメンタムがさらに改善。

バリュエーション

不動産	↑	1.56
ヘルスケア	↑	0.76
公益事業	↑	0.57
一般消費財	↓	-0.56
情報技術	↑	-0.93
資本財	↓	-1.00

モメンタム

コミュニケーション・サービス	↓	1.78
ヘルスケア	↑	1.23
情報技術	↓	0.76
公益事業	↓	-0.43
生活必需品	↓	-1.14
不動産	↓	-1.29

収益センチメント

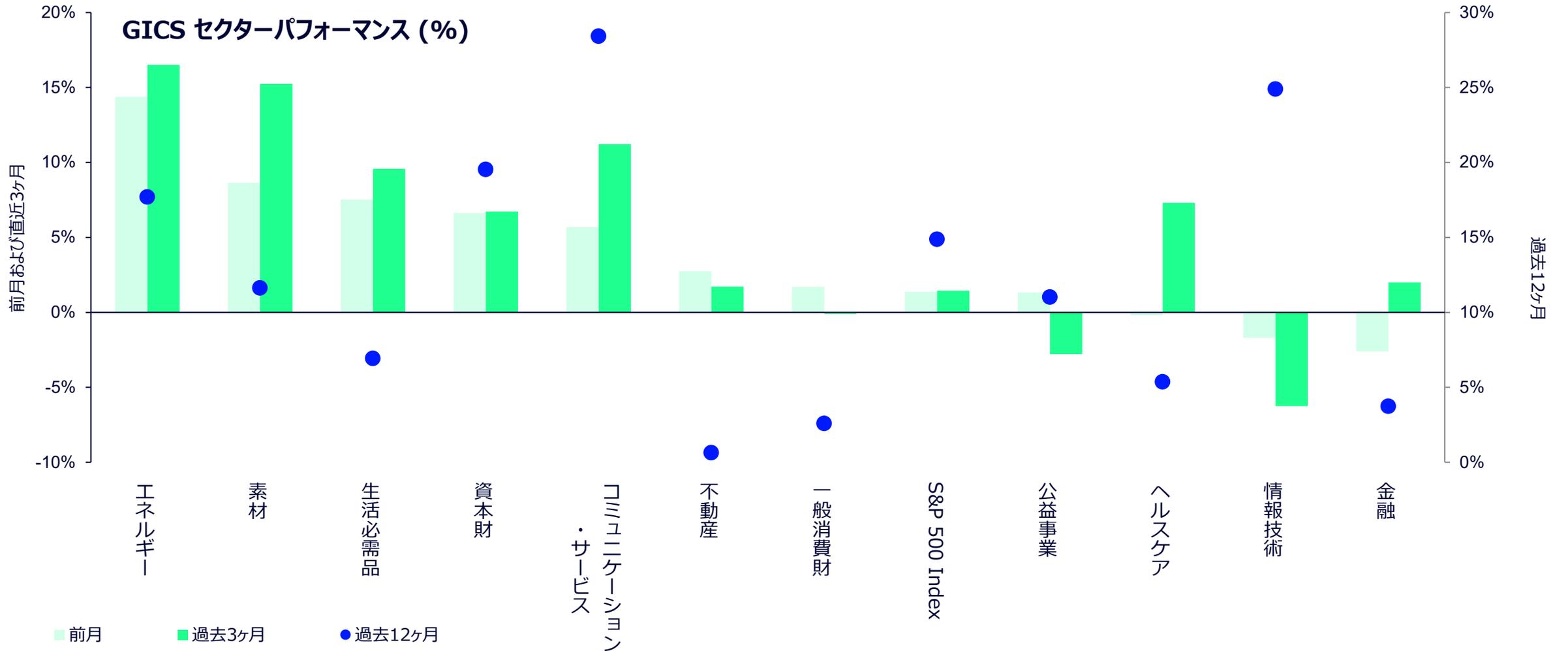
情報技術	↑	1.65
資本財	↑	0.64
コミュニケーション・サービス	↑	0.29
一般消費財	↓	-0.43
不動産	↓	-0.64
素材	↓	-0.66

[セクタースコアカード詳細サマリー](#)

出所：State Street Investment Management, FactSet, Bloomberg Finance, L.P. (2026年1月30日現在)。緑色は上位3位、赤色は下位3位を示します。セクタースコアはS&P500セクター指数を用いて算出しています。バリュエーション、モメンタム、収益センチメントの指標については付録Aをご参照ください。全体概要とスコアリング手法は上記付録Bをご参照ください。

セクターパフォーマンス

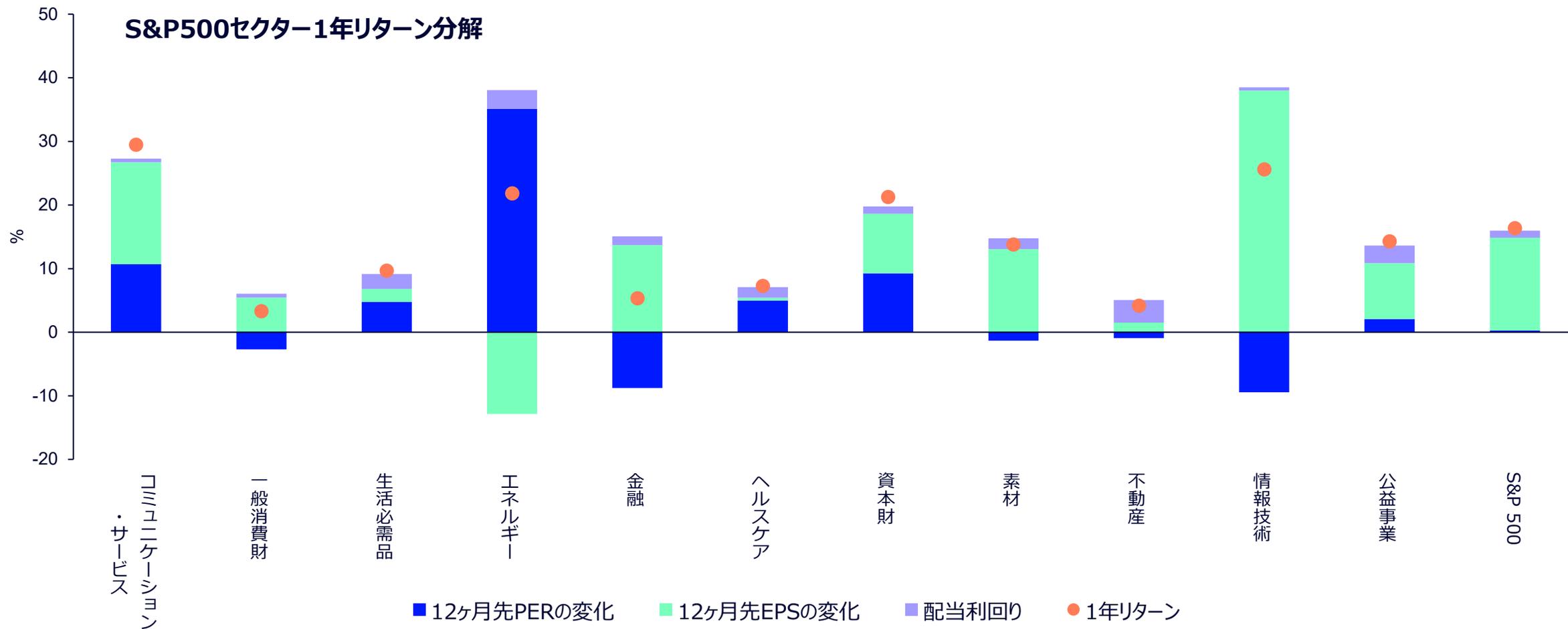
1月は金融を除くシクリカルセクターがコモディティ関連を中心にアウトパフォーマンスし、情報技術は直近3ヶ月で最も出遅れ。



出所：Bloomberg Finance, L.P. (2026年1月30日現在)。S&P 500 GICS レベル1セクター指数を使用しています。記載のパフォーマンスは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

セクターリターン分析

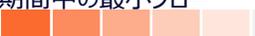
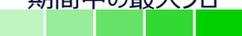
コミュニケーション・サービスと資本財は、マルチプル拡大と力強い利益の双方が追い風となり上昇。一方、情報技術と金融はマルチプル縮小下でも利益の強さが株価を支えた。



出所： FactSet (2026年1月30日現在)。記載のパフォーマンスは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

セクター資金フロー

素材、資本財、エネルギーは1ヶ月・3ヶ月の両期間で資金流入を主導し、投資家はマグニフィセント7比率の高いセクターから距離を置く動き。
金融にはパフォーマンスが弱い中でも資金が戻り始めた。

期間中の最小フロー  期間中の最大フロー 

	前月の資金流入額 (百万ドル)	過去3ヶ月間の資金流入額 (百万ドル)	過去12ヶ月間の資金流入額 (百万ドル)
コミュニケーション・サービス	-126	442	2,964
一般消費財	-1,202	-1,362	-3,837
生活必需品	182	-1,027	-1,121
エネルギー	5,685	7,182	2,258
金融	4,196	1,222	385
ヘルスケア	2,262	5,077	537
資本財	3,289	5,595	10,586
素材	7,403	9,302	10,012
不動産	-142	2,846	4,598
情報技術	-1,470	343	7,004
公益事業	-1,250	-349	5,099

出所：State Street Investment Management, Bloomberg Finance, L.P. (2026年1月30日現在)。

フロー・センチメント (過去3ヶ月)

エネルギーは最近フローセンチメントが改善し、イラン情勢に起因する地政学的リスクの高まりを背景に、投資家が潜在的な原油供給混乱に備える動きが強まった。

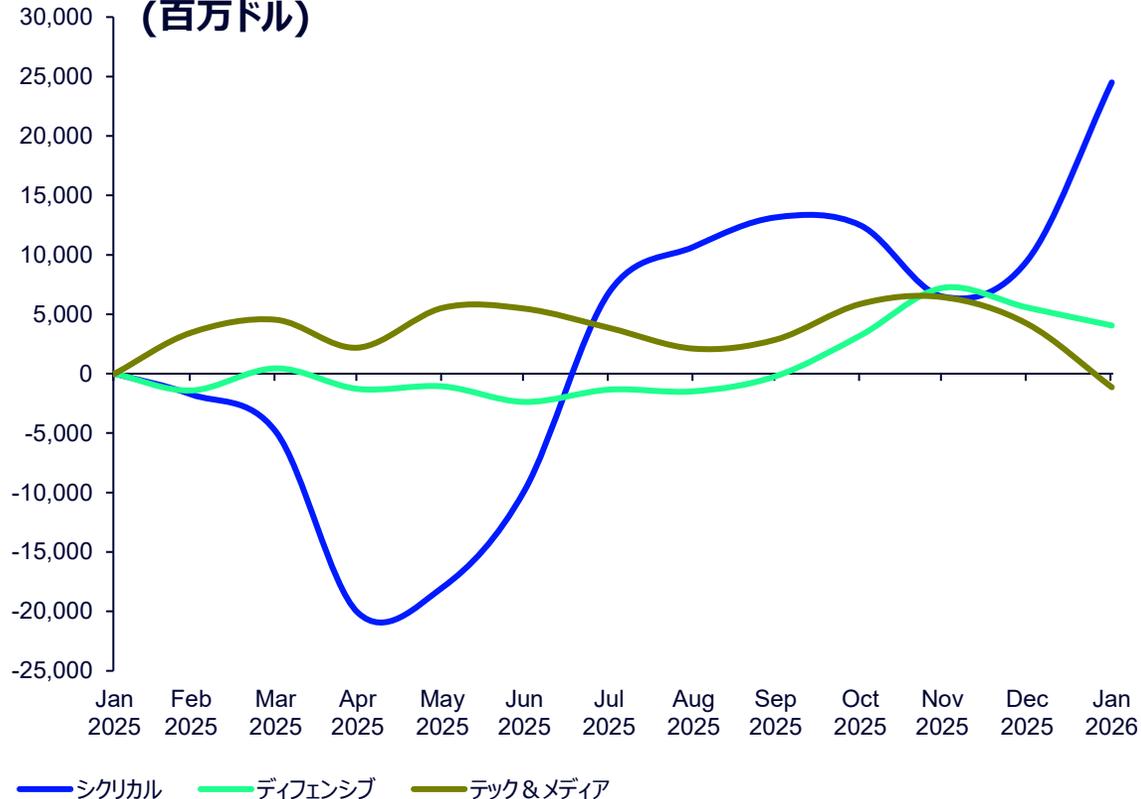
	フロー・センチメント順位のQoQ変化	フロー・センチメントスコア	3ヶ月純流入額 (百万ドル)	資金流入があった 日数	連続流入日数 (最長)	3ヶ月純流入額の QoQ差分(百万ドル)
コミュニケーション・サービス	↓	5.3	441	34	9	-617
一般消費財	↓	2.5	-1,364	26	3	-2,449
生活必需品	↓	4.0	-1,027	30	4	-1,245
エネルギー	↑	11.0	7,144	48	13	6,803
金融	↑	7.8	1,165	34	7	377
ヘルスケア	↓	7.3	5,075	37	7	3,886
資本財	↓	8.0	5,585	42	10	931
素材	↓	6.0	9,356	41	11	4,767
不動産	↑	8.8	2,845	39	10	1,976
情報技術	↓	3.5	325	29	7	-3,684
公益事業	↓	3.0	-349	30	7	-2,113

出所：Bloomberg Finance, L.P.、State Street Investment Management（2026年1月30日現在）。フロー・センチメントスコアを算出するために、まず各セクターは四半期ごとの純流入額の変化、資金流入があった日数、連続流入日数（最長連続記録）に基づいて順位付けされます。その後、各セクターのフロー・センチメントスコアは、これらの順位の加重平均として計算され、純流入額の指標に50%、流入の安定性指標それぞれに25%の重みが割り当てられます。スコアが高いほど平均順位が高く、センチメントが良好であることを示します。四半期ごとの順位変化の方向を示すために、3つの指標の加重平均順位を現在と前回の3ヶ月間で計算し、その変化を比較します。

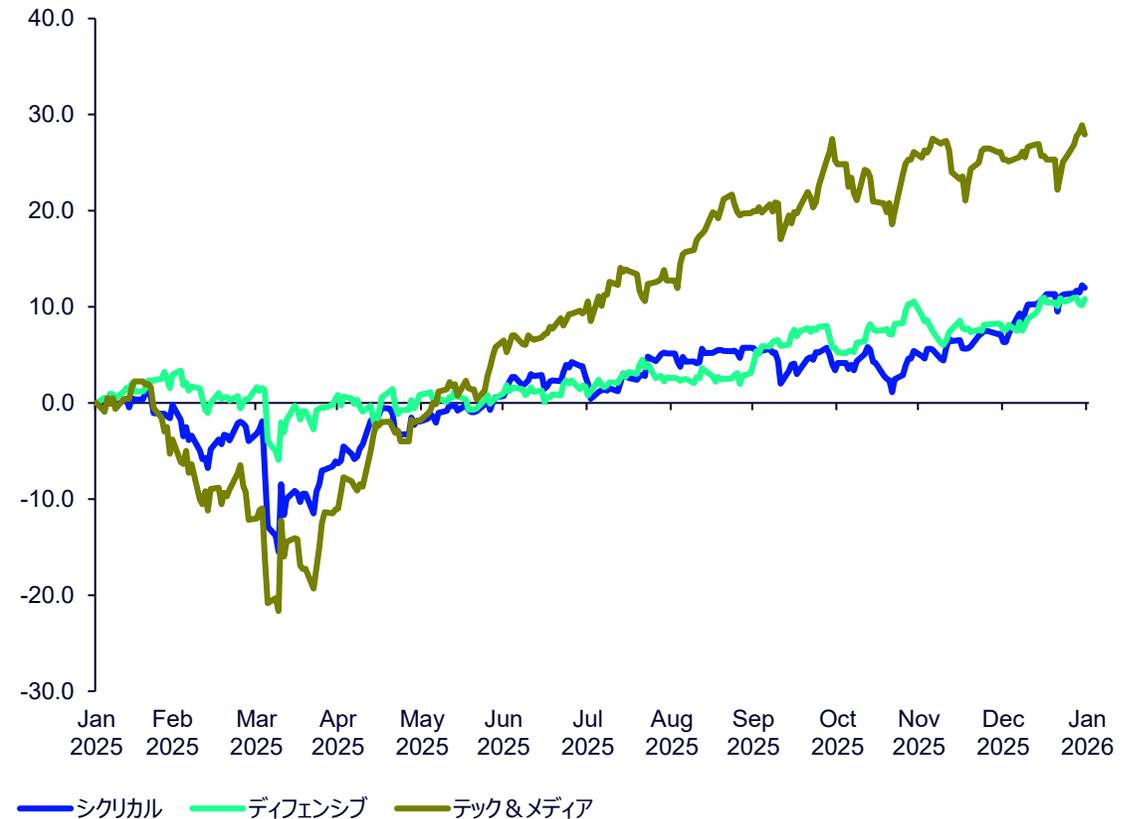
シクリカル vs. ディフェンシブ

シクリカルセクターへの3ヶ月ローリングフローは1月に1年ぶり高水準に到達。一方、テック&メディアのフローは1年ぶりにマイナスへ転じた。

セクターグループ別3ヶ月ローリング資金フロー
(百万ドル)



セクターグループ別累積リターン (%)



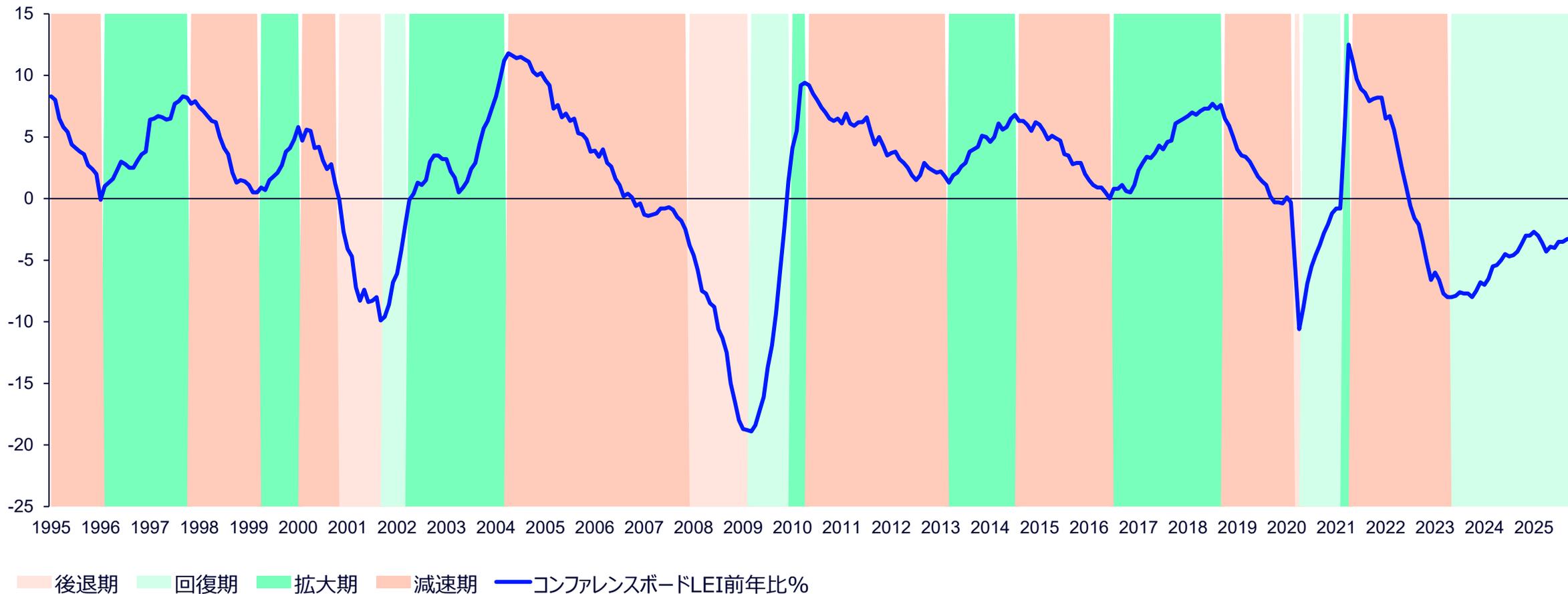
出所：Bloomberg Finance, L.P.（2026年1月30日現在）。過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。左のグラフ：各カテゴリ内のファンドフローの3ヶ月ローリング合計（月次表示）。右のグラフ：等ウェイト・セクターポートフォリオの累積リターン（日次表示）。S&P 500セクター指数に基づく。セクターグループの定義：景気循環型セクターグループは、一般消費財、エネルギー、金融、資本財、素材、不動産セクターで構成されます。ディフェンシブセクターグループは、生活必需品、ヘルスケア、公益事業セクターで構成されます。テックプラス（Tech+）セクターグループは、コミュニケーション・サービスおよび情報技術セクターで構成されます。

セクターのマクロトレンド

景気循環

関税不透明感、弱い消費者マインド、高金利環境といった逆風が続く中でも、米国景気は2022年の急減速から浅い回復基調を維持。

先行経済指標指数の前年比変化率 (景気循環、%)



出所：Bloomberg Finance, L.P., State Street Investment Management（2025年11月30日現在）。景気後退期を特定する際には、全米経済研究所（NBER）が示す景気のピークと一致させるため、開始月にわずかな調整を加えております。この調整により、景気後退入りの開始月が市場の下落局面とより整合的になります。

マクロモニター

2022年以来最も強いISM製造業景気指数は資本財と素材に追い風となり、金利低下とイールドカーブのステープ化は金融、情報技術、コミュニケーション・サービスにとっても追い風。

カテゴリー	経済指標	最新値	52週高値	52週安値	トレンド*	セクター感応度
経済	GDPNow	4.2	5.4	-3.7	▲	+ シクリカル
	ISM 製造業 PMI (季調済)	52.6	52.6	47.9	▲	+ 資本財, 素材
	シティ経済サブライズ指数	53.5	53.5	-26.0	▬	
消費	非農業部門雇用者数 (前月比・季調済)	50.0	158.0	-173.0	▬	
	失業率	4.4	4.5	4.1	▬	
	消費者信頼感	84.5	100.1	84.5	▼	- 一般消費財
	小売売上高前年比 (%)	3.3	5.1	3.3	▼	- 一般消費財
インフレ	PCE前年比 (%)	2.8	3.0	2.6	▬	
	10年ブレイクイーブン	2.3	2.5	2.1	▬	
金利/通貨	FF金利上限	3.8	4.5	3.8	▼	+ シクリカル, 情報技術, コミュニケーション・サービス
	米国イールドカーブ2年10年	70.8	73.8	15.9	▲	+ 金融
	10年国債利回り	4.3	4.7	3.9	▲	+ シクリカル
	米ドル	97.5	109.9	95.6	▬	
商品	原油価格 (WTI)	61.7	78.4	55.0	▬	

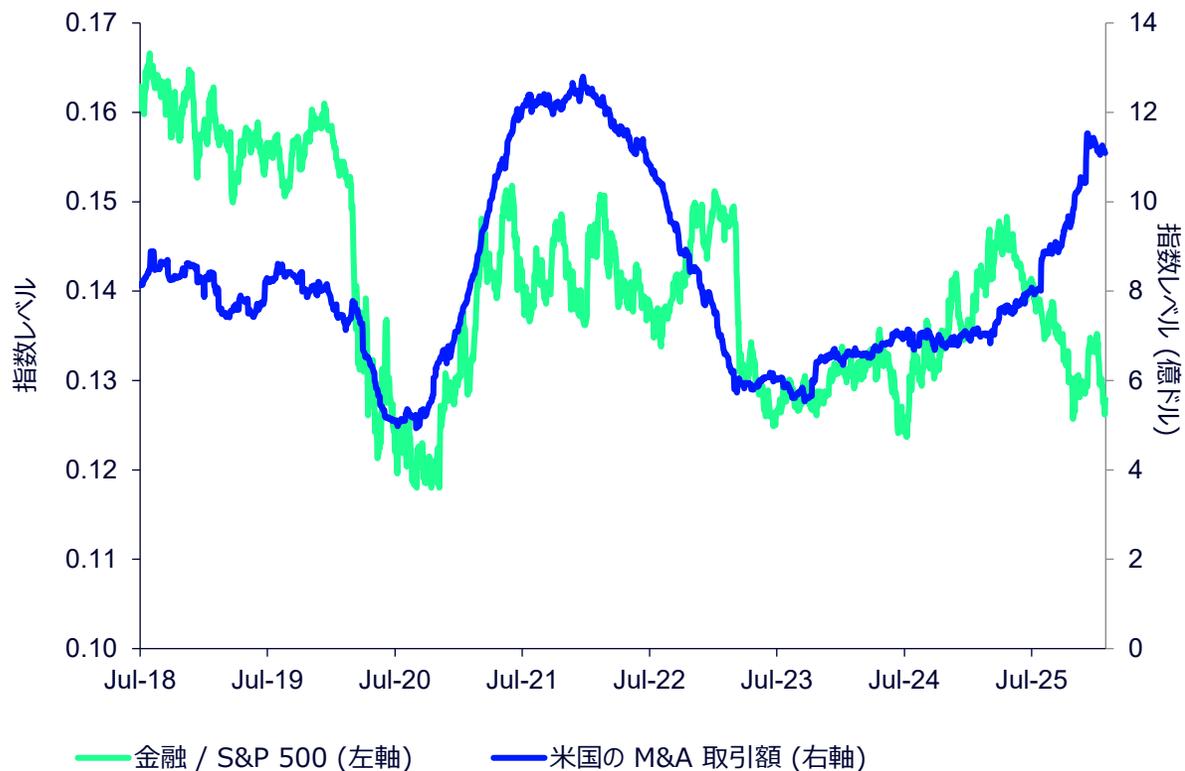
注目すべきマクロ指標

出所：Bloomberg Finance, L.P., State Street Investment Management、2026年2月2日現在。*トレンドの定義：「上昇」は現在値が3か月平均および6か月平均を上回る場合、「下降」は現在値が3か月平均および6か月平均を下回る場合を指します。「中立」はいずれの条件にも当てはまらない場合を示します。

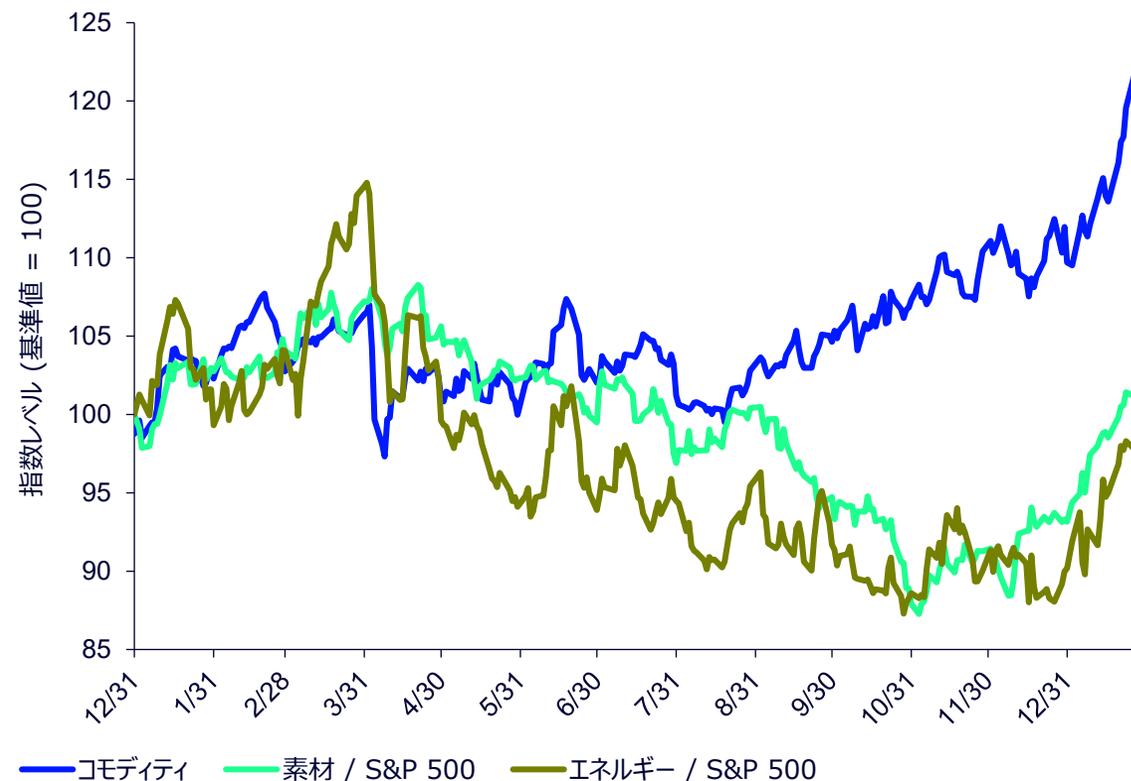
マクロ注目：金融、エネルギー、素材

M&A 活動の活発化は金融を支援し、コモディティ高はエネルギーと素材の追い風となる展開。原油価格がさらに上昇すれば、これらセクターにはなお上値余地。

米国の M&A 活動の拡大



コモディティ価格の上昇

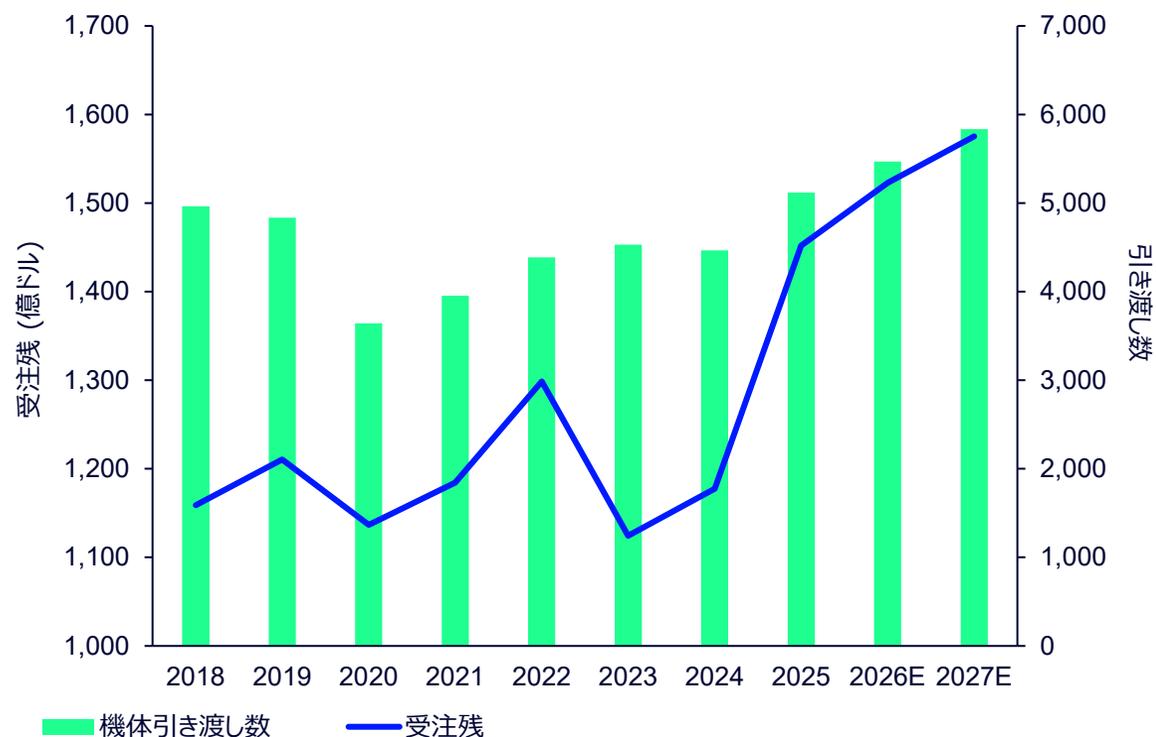


出所：：Bloomberg Finance, L.P., State Street Investment Management (2026年1月30日現在)。記載のパフォーマンスデータは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。左側のチャートにおける「M&A Transaction Value US」は、Bloomberg の MAATUS 指数であり、米国におけるM&A取引額を示しております。「Financials / S&P 500」は、S&P 500金融セクター (GICSLレベル1) 指数をS&P 500指数で割った値を示しております。右側のチャートにおける「Commodities」は、Bloomberg の Bloomberg Commodity Index (BCOM Index) を示しております。「Energy / S&P 500」は、S&P 500エネルギーセクター (GICSLレベル1) 指数をS&P 500指数で割った値、「Materials / S&P 500」は、S&P 500素材セクター (GICSLレベル1) 指数をS&P 500指数で割った値を示しております。

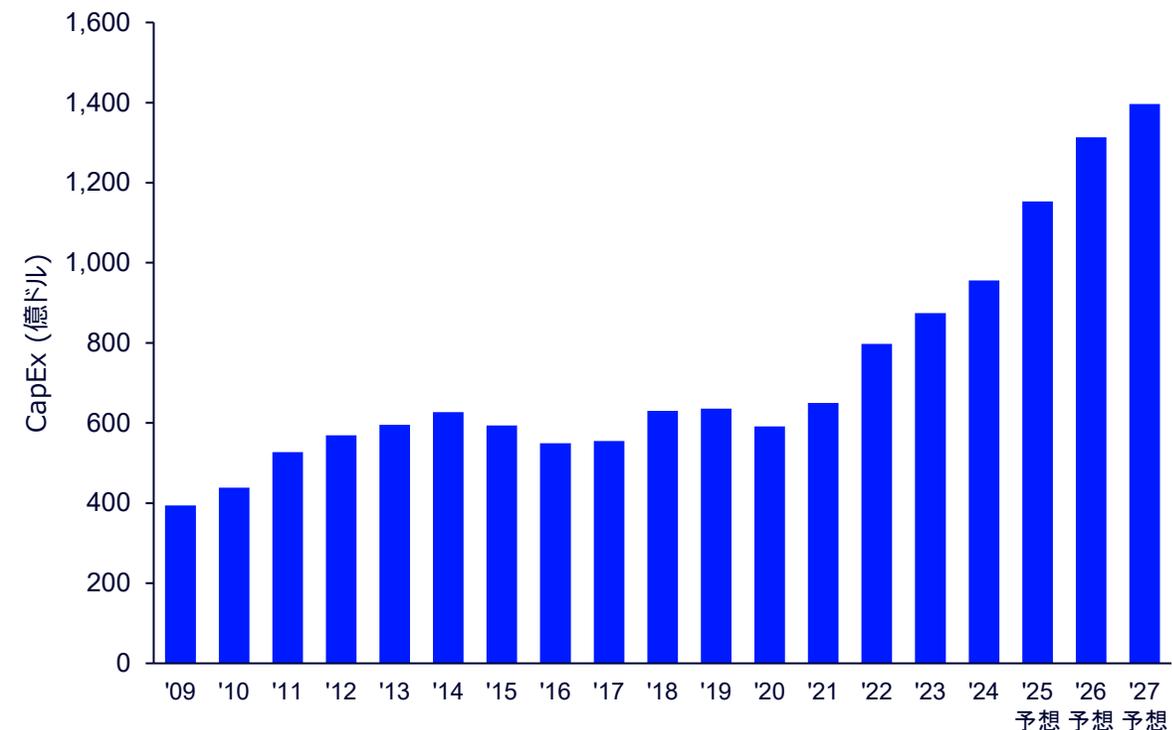
マクロ注目：資本財

資本財はAI関連投資と財政面の追い風による強い設備投資モメンタムの恩恵を受け、納入改善を伴う記録的な受注残が航空・防衛分野の旺盛な需要を下支え。

航空・防衛分野：主要5社の受注残と機体引き渡し数



S&P 500 企業全体の設備投資 (Capex)



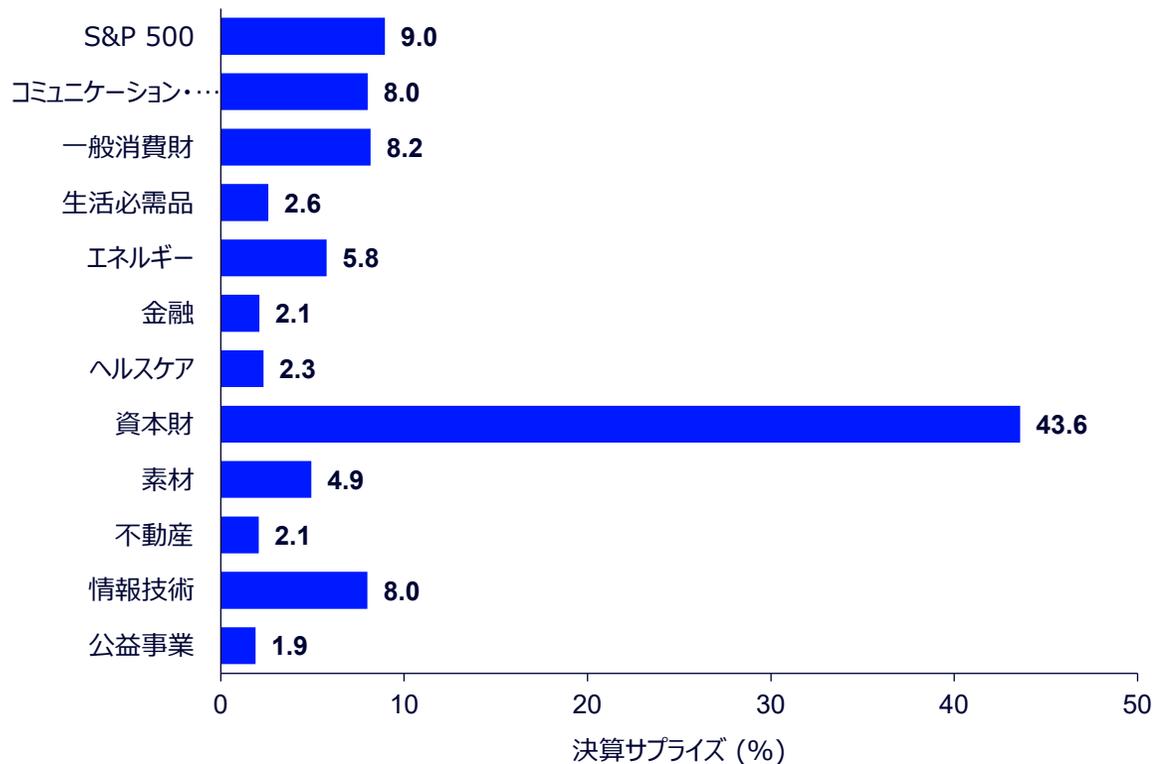
出所：Bloomberg Finance, L.P., FactSet（2026年1月30日現在）。左側のチャートにおける「Top 5 Aerospace & Defense companies with available data」は、General Electric、RTX Corp、Boeing Co、Lockheed Martin Corp、General Dynamics Corp の5社を対象としております。将来期間については Bloomberg のコンセンサス予想値（mean estimates）を使用し、予想値が入手できない場合は直近の値を使用しています。ユニットデリバリーには、軍向け・海外政府向け・民間顧客向けに納入される航空機、航空機エンジン、航空機アフターサービス、防衛・攻撃用の脅威探知、追跡、軽減ソリューションが含まれております。

セクターのファンダメンタルズ

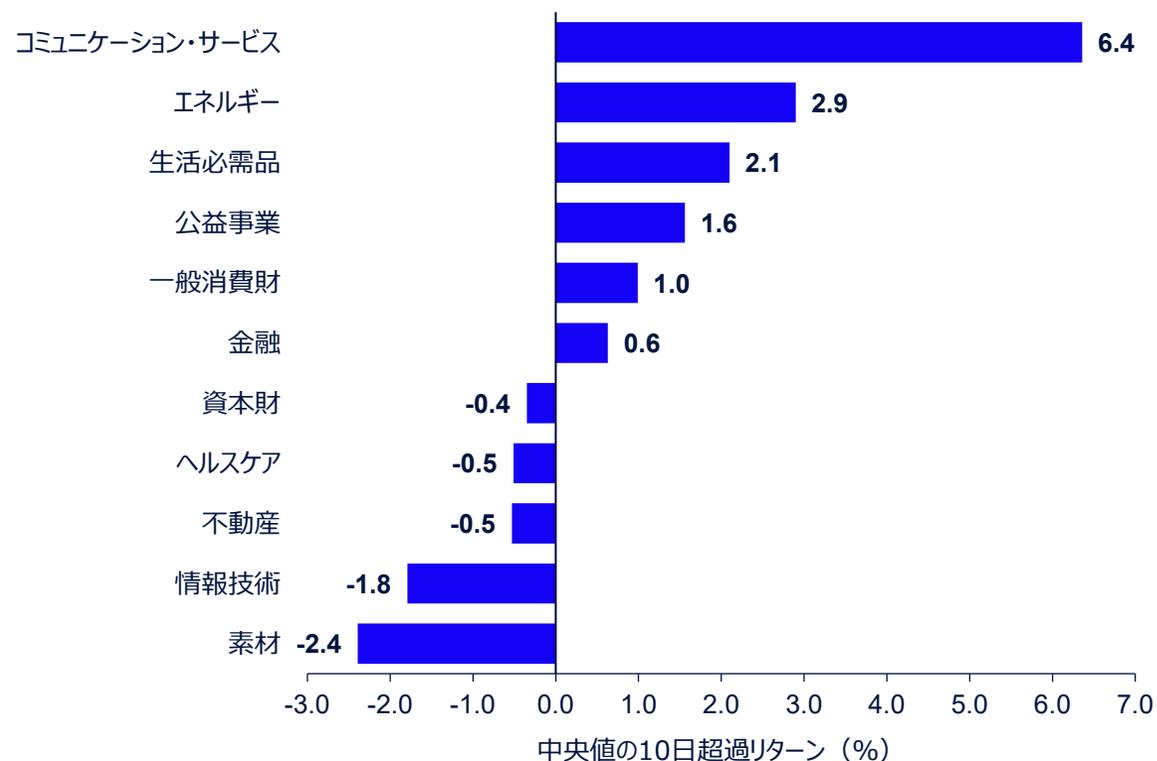
第4四半期決算結果

資本財はBoeing や GE Vernova の一時的収益を背景に決算サプライズが相次ぎ、コミュニケーション・サービス企業の力強い決算とガイダンスも投資家に評価された。

第4四半期の決算サプライズ



決算発表に対する株価反応 (S&P 500比)

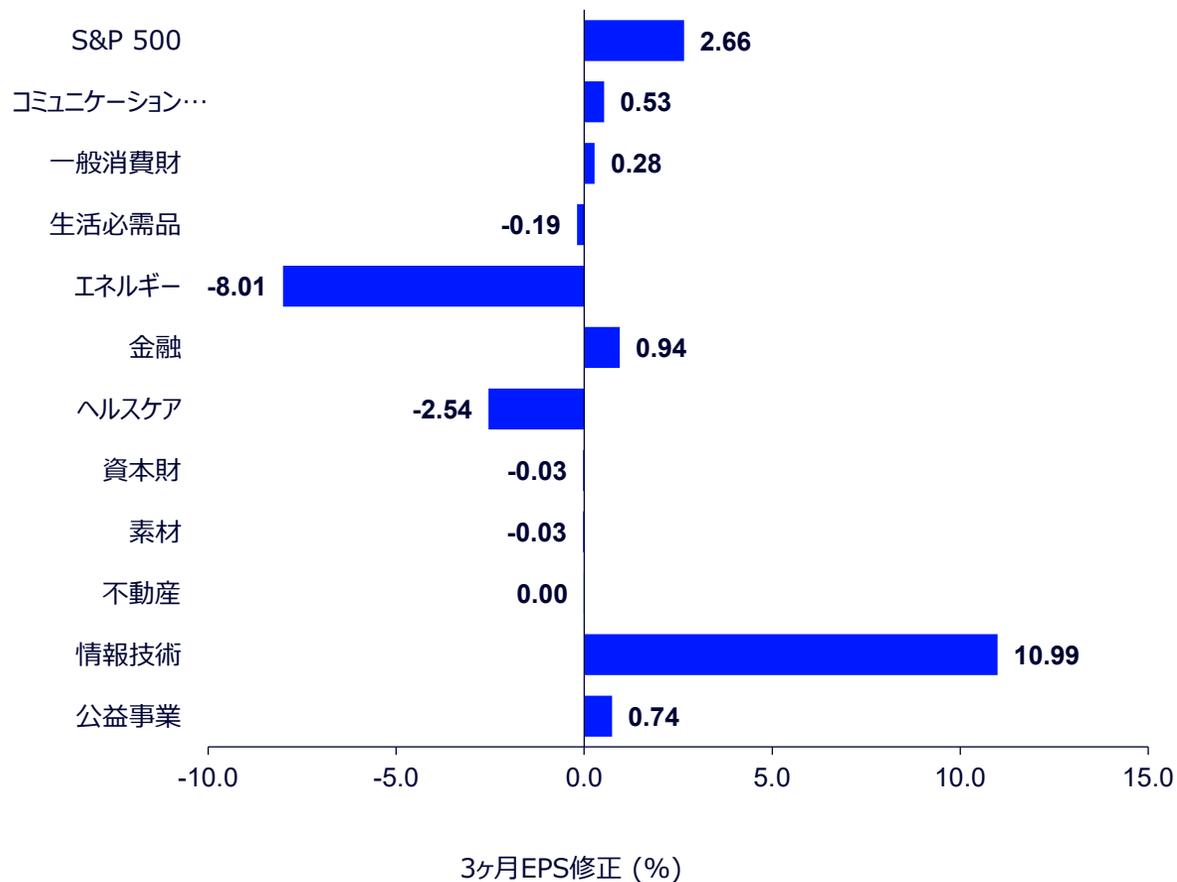


出所：FactSet, Bloomberg Finance, L.P. (2026年1月30日現在)。S&P 500 セクター指数に基づいております。右側のチャートにおける1日超過リターンは、市場オープン前に決算を発表する企業については発表当日のリターンを使用し、それ以外の企業については発表翌日のリターンを使用して算出しております。

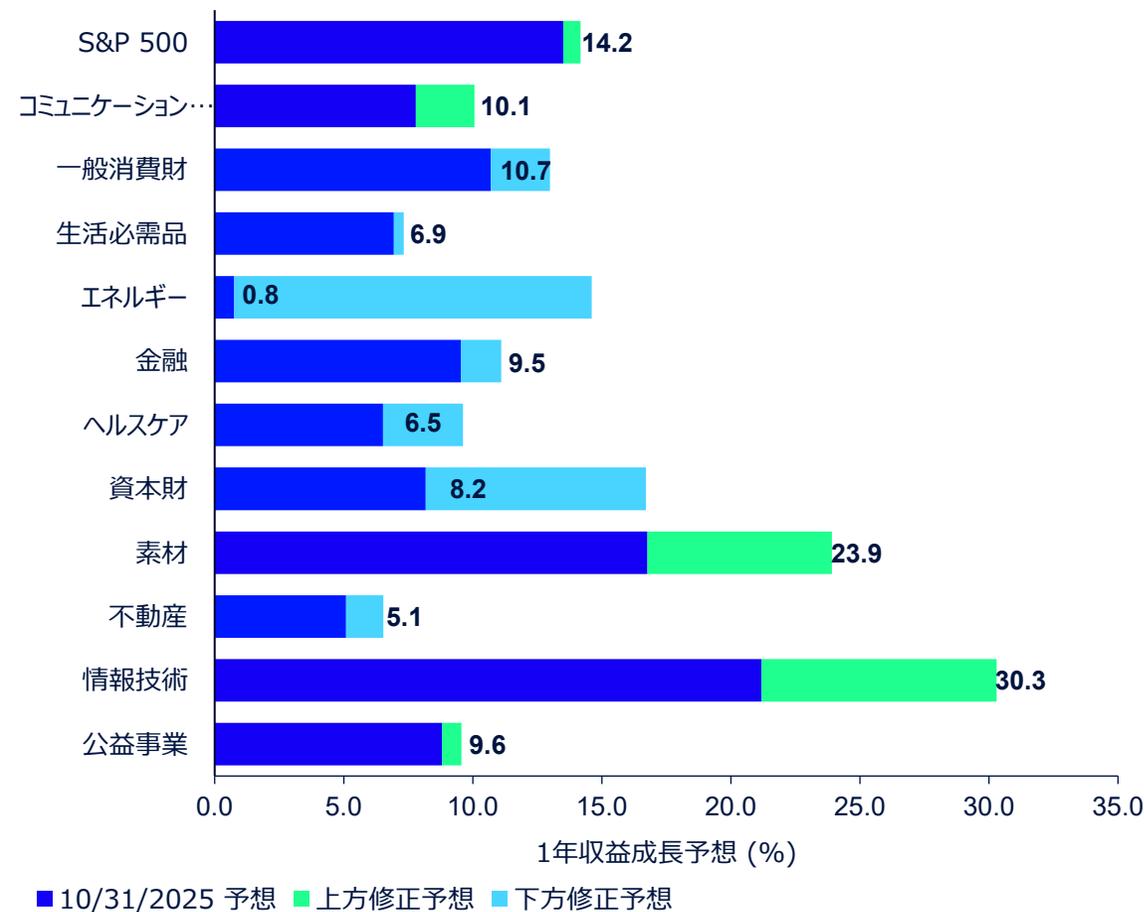
2026年収益

情報技術は今年の利益見通しと成長期待を主導する一方、素材・コミュニケーション・サービス・公益事業も利益センチメントが改善。

2026年収益予想の変化



2026年 収益成長予想



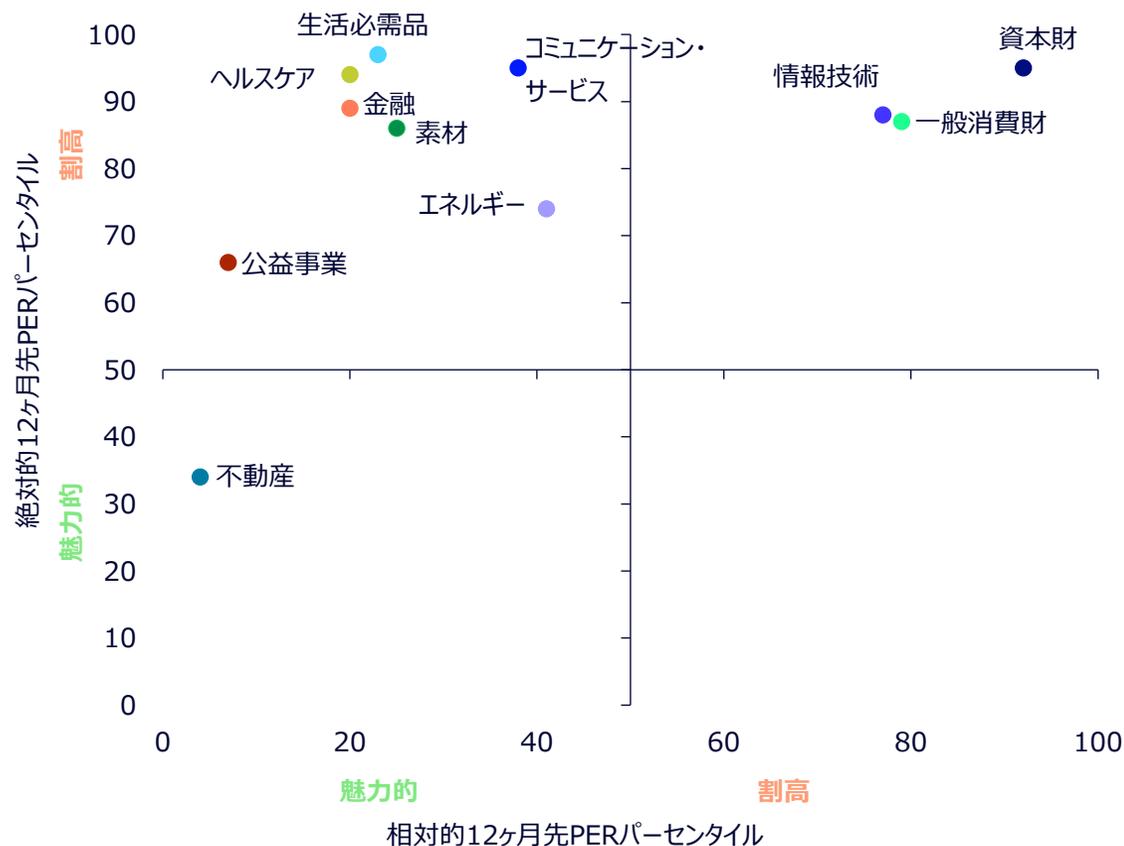
出所：FactSet（2026年1月30日現在）。S&P 500 セクター指数に基づいております。右側のチャートのラベルは、各セクターの通期利益成長率予想を示しております

バリュエーション

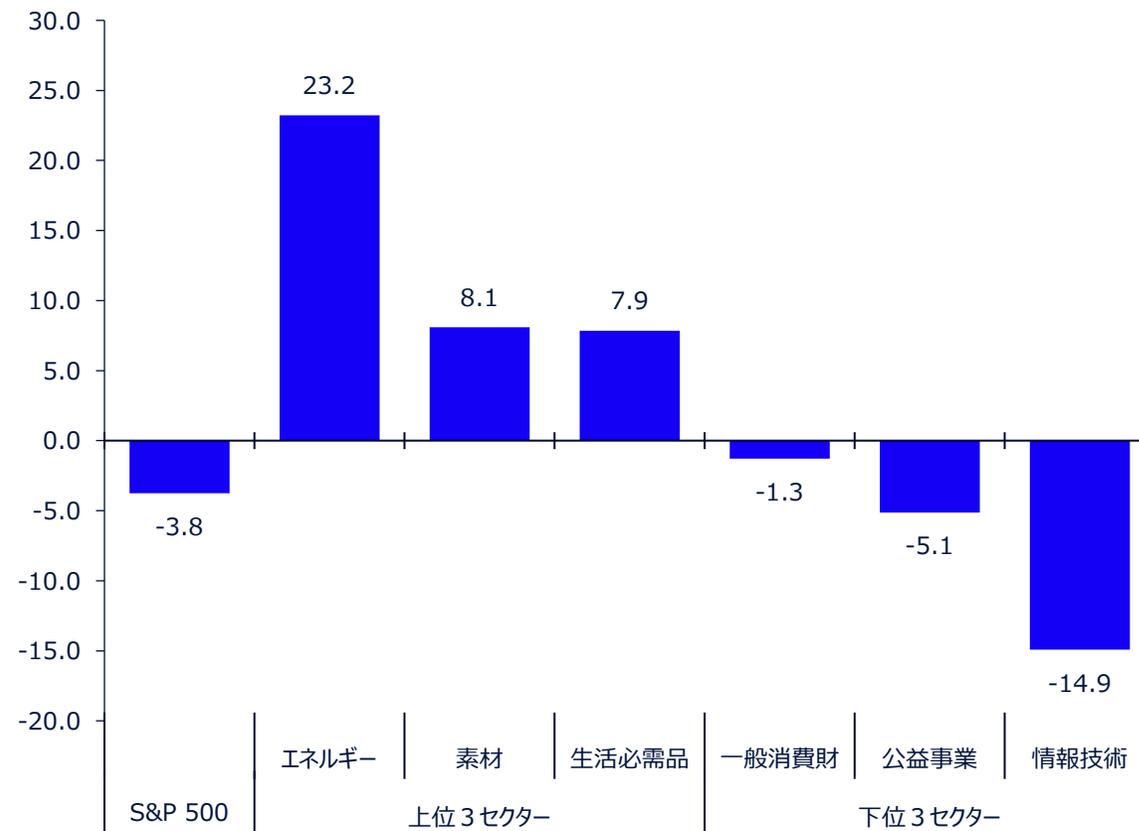
エネルギー上昇は主にマルチプル拡大が牽引し、情報技術は利益上方修正が続く中でもモメンタム弱化が重なりマルチプルが縮小。

12ヶ月先予想PER

15年パーセンタイル順位



12ヶ月先PERの3ヶ月変化 (%)

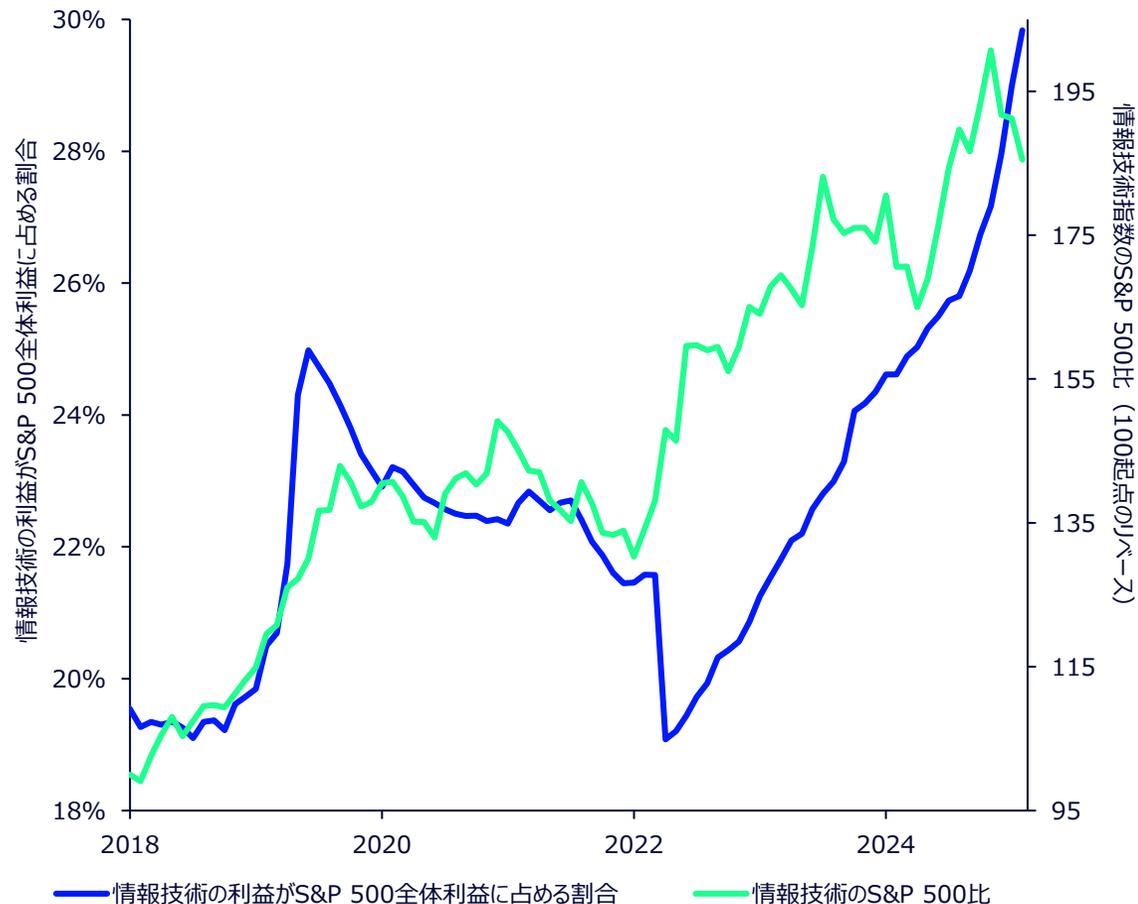


出所：FactSet（2026年1月30日現在）。S&P 500 セクター指数に基づいています。相対的な今後12か月のP/Eレシオは、各セクターのP/EをS&P 500指数のP/Eと比較したものです。

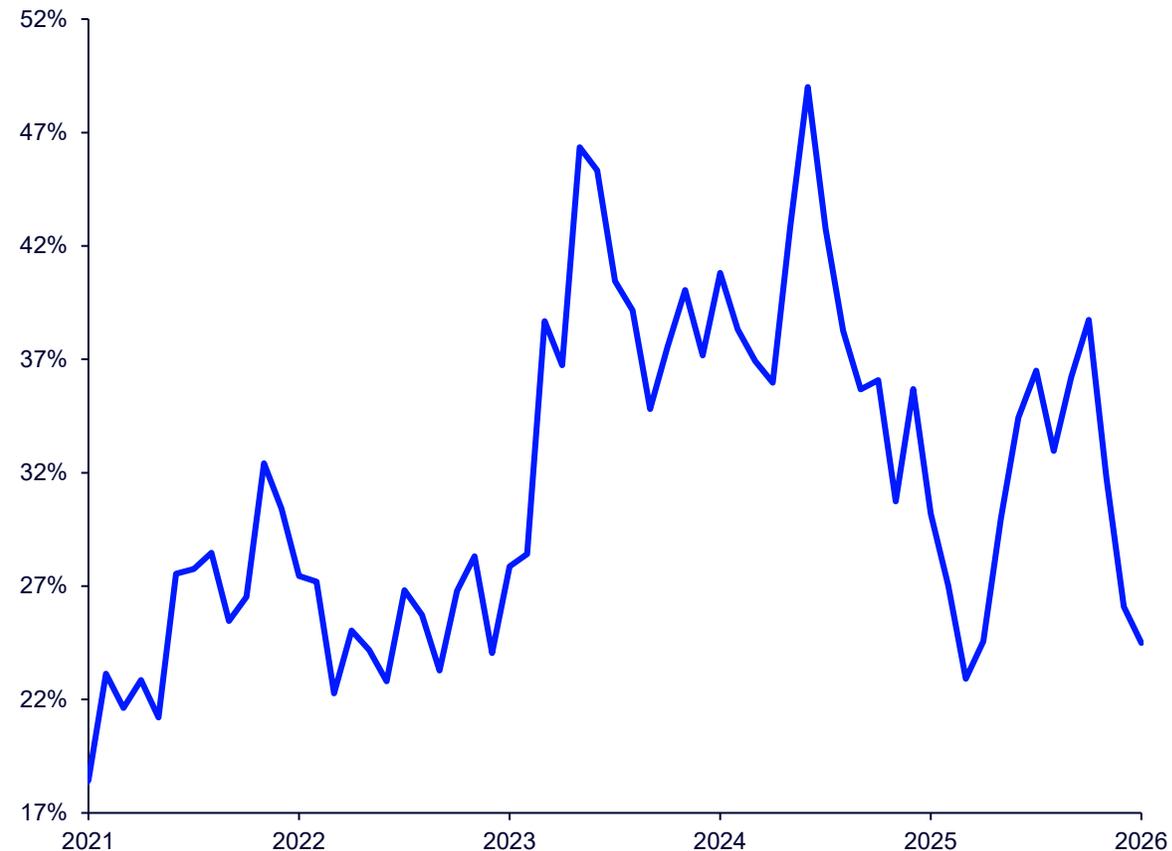
ファンダメンタルズ注目： 情報技術

情報技術の利益動向は相対的パフォーマンスの主要ドライバーであり、直近のマルチプル縮小により相対バリュエーションは過去5年の低水準に接近。

S&P 500 情報技術 vs. S&P 500 — 収益とパフォーマンス



情報技術の12か月先PER (S&P 500比)



左側チャートの出所：FactSet, Bloomberg Finance, L.P. (2026年1月30日現在)。情報技術セクターの利益を S&P 500 全体利益に対する割合として示しており、S&P 500 および S&P 500 情報技術指数の今後12か月の純利益予想に基づいています。
右側チャートの出所：FactSet (2026年1月30日現在)。記載のパフォーマンスデータは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

ファンダメンタルズ注目： ヘルスケア

ヘルスケアの相対バリュエーションは、主要製薬企業がトランプ政権と薬価合意に至ったことで反発したものの、政策リスクは依然として高水準。

ヘルスケア政策不確実性指数とヘルスケア相対バリュエーション



出所：FactSet, Bloomberg Finance, L.P. (2026年1月30日現在)。S&P 500ヘルスケア指数に基づいています。記載のパフォーマンスデータは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

セクターのテクニカルトレンド

テクニカルトレンド & モメンタム

エネルギーは1月に力強いブレイクアウトを見せ、主要移動平均線も上向きに転じた。情報技術と金融は長期上昇トレンド維持ながらモメンタムは軟化。

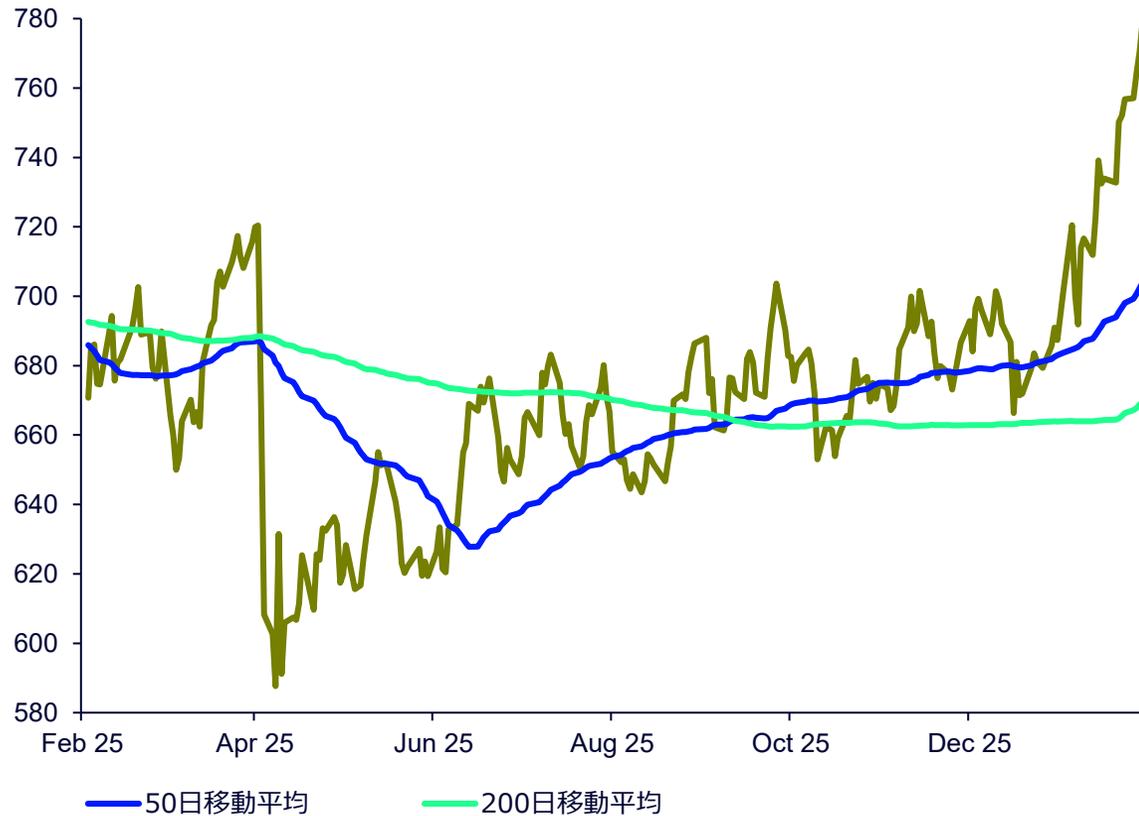
セクター	トレンド			モメンタム	
	短期トレンド (20日移動平均)	中期トレンド (50日移動平均)	長期トレンド (200日移動平均)	方向性	強さ
コミュニケーション・サービス	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	強
一般消費財	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	弱
生活必需品	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	強
エネルギー	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	強
金融	ネガティブ	ポジティブ	ポジティブ	ネガティブ	弱
ヘルスケア	ネガティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	弱
資本財	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	強
素材	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	強
不動産	ポジティブ	中立	中立	ポジティブ	強
情報技術	ネガティブ	ポジティブ	ポジティブ	ネガティブ	弱
公益事業	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ポジティブ	強
S&P 500	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	強

出典：Bloomberg Finance L.P.（2026年1月30日現在）MA = 移動平均。トレンドは、月末と1週間前の移動平均の傾きで定義されます。緑色のセルは傾きが0.5を超える場合のポジティブトレンドを示します。灰色のセルは傾きが-0.5から+0.5の範囲でニュートラルなトレンドを示します。赤色のセルは傾きが-0.5未満のネガティブトレンドを示します。モメンタムの方向性はMACD（移動平均収束拡散法）で測定され、12期間EMAから26期間EMAを引いた値が0より大きければ「ポジティブ」（緑）、0未満なら「ネガティブ」（赤）と表示されます。モメンタムの強さはRSI（相対力指数）で測定され、14日間の価格変動の速さと変化を示します。RSIが1ヶ月平均を上回る場合はモメンタム強化（緑）、下回る場合は弱体化（赤）と表示されます。過去の実績は将来の成果を保証するものではありません。

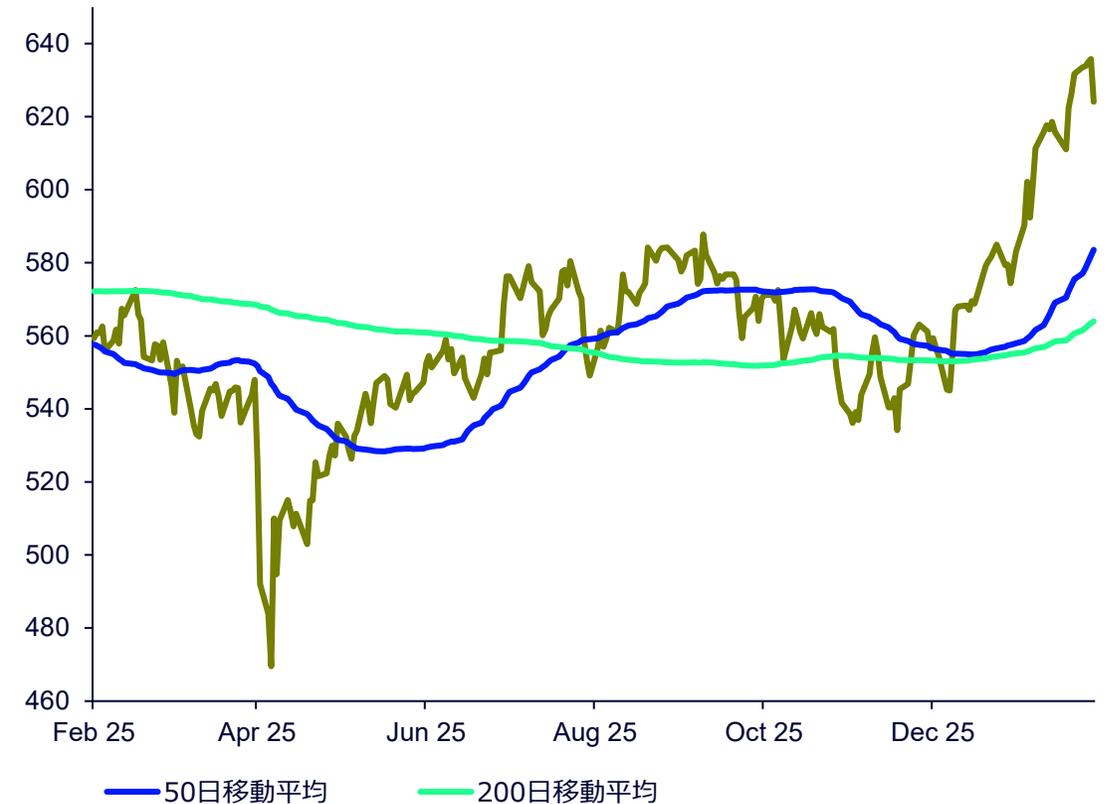
テクニカル注目：エネルギーと素材

シクリカル全体の幅広い上昇がエネルギーと素材で鮮明となり、新高値更新後も上昇が継続。

S&P 500 エネルギー指数



S&P 500 素材指数

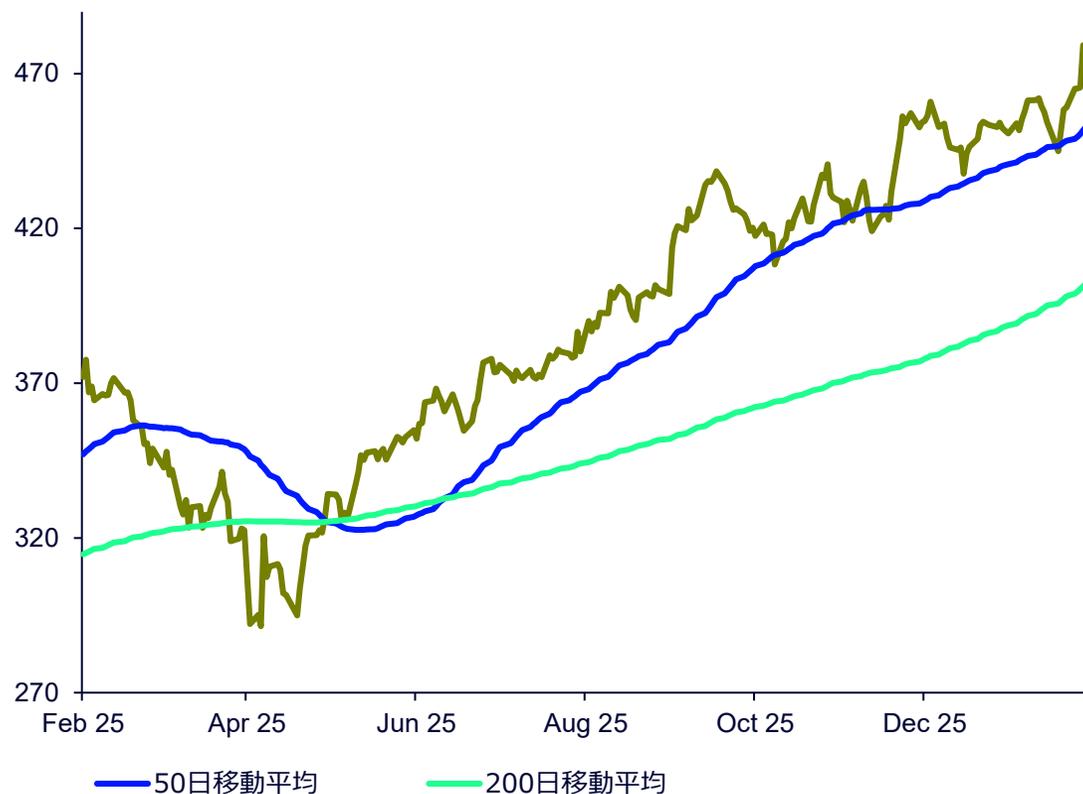


出所：Bloomberg Finance, L.P.（2026年1月30日現在）。記載のパフォーマンスデータは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

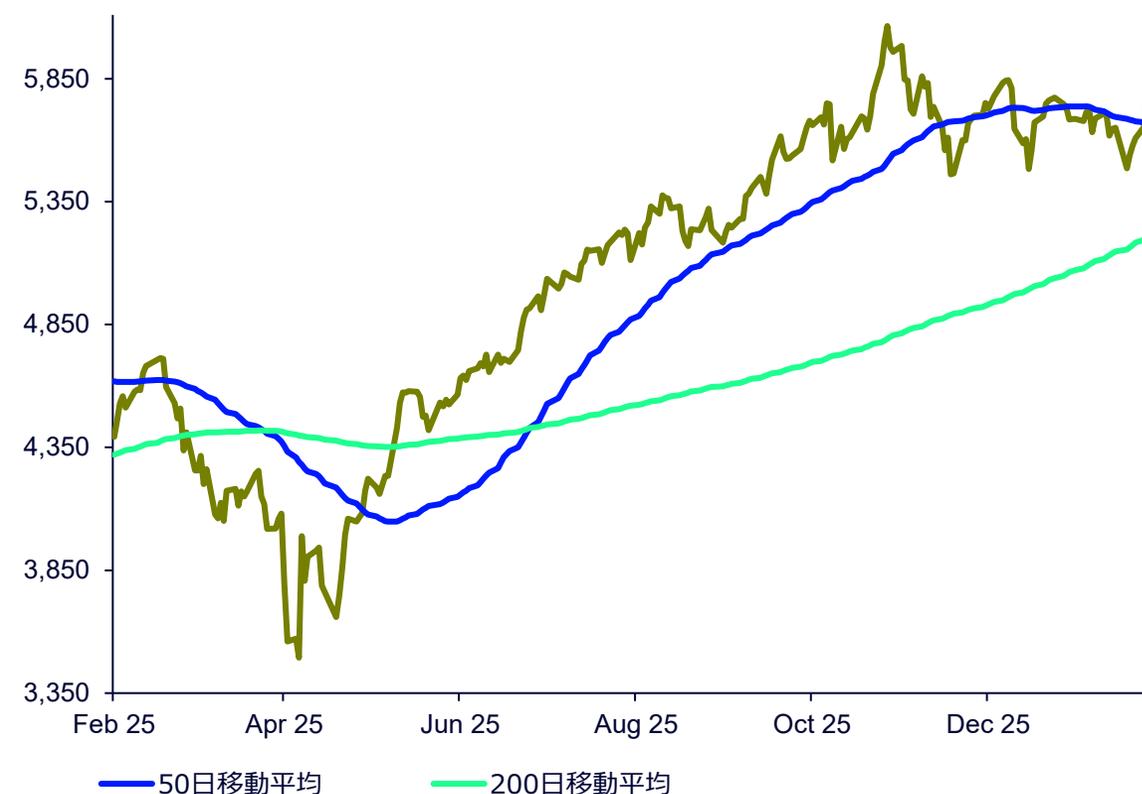
テクニカル注目：情報技術と コミュニケーション・サービス

コミュニケーション・サービスはMetaの強い決算を背景に上昇トレンドを強化し一段高へ。ソフトウェアの弱さにより情報技術は上昇基調内でのレンジ推移。

S&P 500 コミュニケーション・サービス指数



S&P 500 情報技術指数

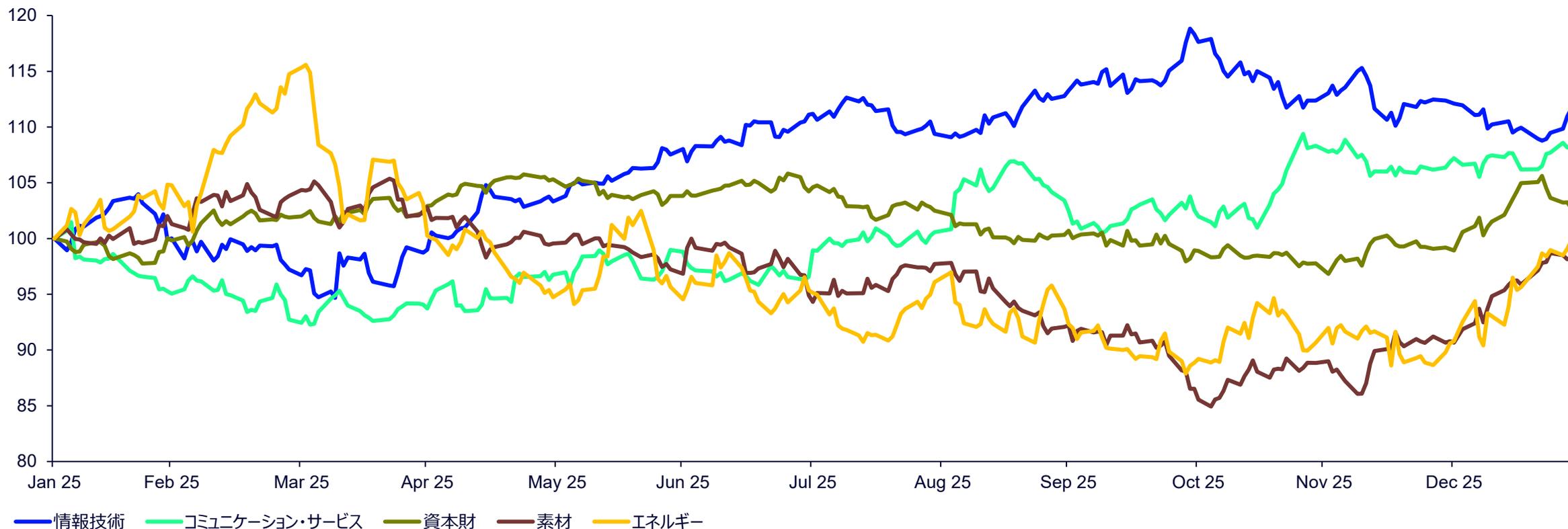


出所：Bloomberg Finance L.P.（2026年1月30日現在）。週次データを使用しています。記載のパフォーマンスデータは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

セクター相対強度

セクターローテーションは資本財、素材、エネルギーの相対強度改善として表れ、コミュニケーション・サービスは過去1年の上昇率で情報技術を上回った。

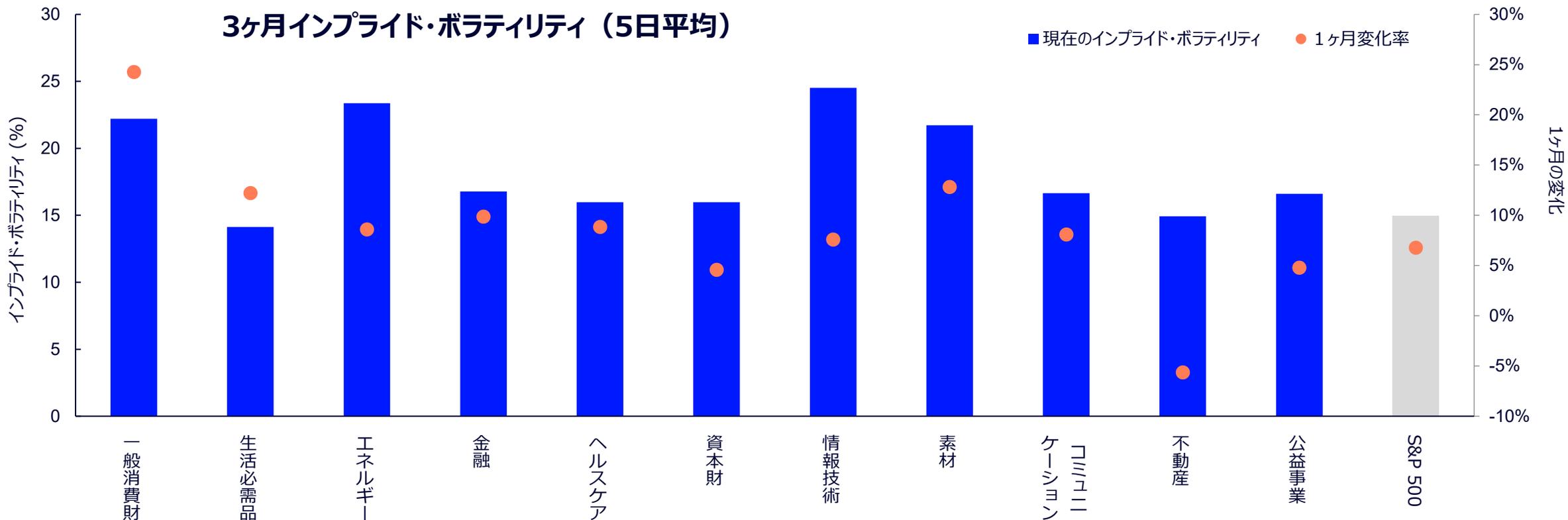
セクター相対強度（100基準）



出所：Bloomberg Finance, L.P.（2026年1月30日現在）。記載のパフォーマンスデータは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

セクターオプション ポジショニング

セクターのインプライド・ボラティリティは1月に広範囲で上昇し、特に一般消費財と素材が主導。情報技術、素材、エネルギーの高ボラティリティは高いオプションプレミアムを示唆。



インプライド・ボラティリティ 1年パーセンタイル順位

一般消費財	生活必需品	エネルギー	金融	ヘルスケア	資本財	情報技術	素材	コミュニケーション・サービス	不動産	公益事業	S&P 500
60%	39%	70%	37%	60%	25%	67%	86%	32%	1%	41%	43%

出所 : Bloomberg Finance, L.P., State Street Investment Management (2026年1月30日現在)。緑色の網掛けはセクターの1年間のボラティリティ・パーセンタイルが高いことを示し、赤色の網掛けは低いことを示します。

セクターポジショニング

公益事業株は低いプット／コール比率と低い空売り残高がポジティブポジションを示す一方、素材では空売り増加とプット／コール比率上昇が投資家の慎重姿勢を示唆。

セクター	プット／コール取引比率			発行済株式数に対する空売り比率		
	現在のレベル	1年パーセンタイル順位	1ヶ月変化率	現在のレベル	1年パーセンタイル順位	1ヶ月変化率
コミュニケーション・サービス	0.74	9%	-16.1%	1.7%	22%	28.4%
一般消費財	1.83	48%	36.3%	10.5%	9%	-8.2%
生活必需品	4.49	69%	-15.2%	12.0%	52%	-24.4%
エネルギー	1.00	0%	-49.0%	8.3%	30%	-1.1%
金融	1.27	22%	16.9%	7.5%	0%	-11.0%
ヘルスケア	1.25	33%	-1.6%	16.4%	83%	1.5%
資本財	5.12	79%	194.3%	5.5%	4%	-17.1%
情報技術	1.40	34%	13.1%	5.0%	96%	25.3%
素材	5.56	100%	79.0%	15.2%	65%	44.1%
不動産	2.77	87%	38.9%	2.1%	13%	-10.4%
公益事業	1.00	7%	-29.9%	3.5%	0%	-7.6%

出所：Bloomberg Finance, L.P.、State Street Investment Management（2026年1月30日現在）。各セクターの代表として Select Sector SPDR Funds のプット／コール出来高を使用しています。米国上場の全セクターETFの空売り残高を基に、発行済株式数に対する空売り比率を算出しています。四半期比で空売り比率が低下している場合は緑、高まっている場合は赤で表示しています。プット／コール比率と空売り比率に基づき、パーセンタイルが最も低いセクターは緑、最も高いセクターは赤で示しています。

付録

目次

セクタースコアカードの算出方法	29
セクタースコアカード	30
重要な注意事項	32

付録A：セクタースコアカードの算出方法

コンポジット スコア	指標
バリュエーション	相対バリュエーション (P/B, P/E, NTM P/E, P/S)
	絶対バリュエーション (P/B, P/E, NTM P/E, P/S)
収益センチメント	収益修正 (EPS予想の変更、アップグレード対ダウングレード比率)
	収益サプライズ (収益サプライズの大きさと広がり)
モメンタム	株価リターン 3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月

表示されている指標は zスコア であり、S&P500セクター内の関連指標の平均と標準偏差を用いて計算されています。zスコアを使用して結果を標準化することで、すべてのセクター間で相対的な評価が容易になります。バリュエーションが割安株価モメンタムが高いセンチメントが強いボラティリティが高いこれらのセクターはより高いzスコアを持ちます。

コンポジットスコアは、同じカテゴリ内の各指標のzスコアを均等に加重して算出します。

スコアカードは State Streetの投資見解を示すものではありません。また、スコアカードで使用される指標は、State Streetによるセクター戦略のバックテストを行っていません。

これらは、セクター投資の透明性を高め、特定の顧客目標を満たすための高度なポートフォリオ構築に必要なデューデリジェンスを理解するための 説明および教育目的 で提供されています。

付録B：セクタースコアカード

	セクター総合 zスコア*					
	バリュエーション		モメンタム		収益センチメント	
	トレンド	現在のスコア	トレンド	現在のスコア	トレンド	現在のスコア
コミュニケーション・サービス	↓	-0.45	↓	1.78	↑	0.29
一般消費財	↓	-0.56	↓	-0.21	↓	-0.43
生活必需品	↓	-0.02	↓	-1.14	↓	-0.19
エネルギー	↓	0.25	↑	-0.37	↑	-0.42
金融	↑	-0.03	↑	-0.04	↓	-0.10
ヘルスケア	↑	0.76	↑	1.23	↓	-0.38
資本財	↓	-1.00	↑	0.06	↑	0.64
情報技術	↑	-0.93	↓	0.76	↑	1.65
素材	↓	-0.08	↑	-0.35	↓	-0.66
不動産	↑	1.56	↓	-1.29	↓	-0.64
公益事業	↑	0.57	↓	-0.43	↑	0.25

出典：State Street Investment Management, FactSet, Bloomberg Finance, L.P. (2026年1月30日現在) 緑色は上位3位、赤色は下位3位を示します。スコアカードは各指標のzスコアを用いてセクター間の数値を標準化し、相対的な位置づけを示します。総合スコアは同一カテゴリ内の各指標zスコアを等加重で合算して算出します。zスコアは平均からの標準偏差の数を示し、 $z = (X - \mu) / \sigma$ (Xはセクターの値、 μ は11セクターの平均、 σ は11セクターの標準偏差) で計算されます。セクタースコアの算出にはS&P500セクター指数を使用しています。バリュエーション、モメンタム、収益センチメントの指標については付録Aをご参照ください。トレンドは現在のスコアと3ヶ月平均を比較して測定しています。

定義

Global Industry Classification Standard (GICS : グローバル産業分類基準) : GICS は、1999 年に MSCI と Standard & Poor's (S&P) によって、グローバルな金融コミュニティ向けに開発された産業分類です。GICS の構造は、10 のセクター、24 の産業グループ、67 の産業、156 のサブ産業で構成され、S&P は主要な上場企業をこれらに分類しています。

S&P 500 不動産 (Real Estate) セクター指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の不動産セクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 公益事業 (Utilities) 指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の公益事業セクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 素材 (Materials) セクター指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の素材セクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 コミュニケーション・サービス (Communication Services) セクター指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の通信サービスセクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 一般消費財・サービス (Consumer Discretionary) 指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の一般消費財・サービスセクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 生活必需品 (Consumer Staples) 指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の生活必需品セクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 金融 (Financial) セクター指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の金融セクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 ヘルスケア (Health Care) セクター指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® のヘルスケアセクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 指数 : 米国大型株の代表的なベンチマークで、主要産業の 500 社で構成され、利用可能な時価総額の約 80%をカバーします。

S&P 500 資本財 (Industrials) セクター指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の資本財セクターに分類される企業で構成されます。

S&P 500 情報技術 (Information Technology) セクター指数 : S&P 500 の構成銘柄のうち、GICS® の情報技術セクターに分類される企業で構成されます。

株価収益率 (P/E Ratio) : 株価収益率 (P/E レシオ) は企業の価値評価に用いられ、株価が 1 株当たり利益に対してどの程度かを示す指標です。計算式は以下の通り : 株価 ÷ 1 株当たり利益 (EPS)

現在の空売り比率 (%) : 流通可能株式のうち空売りされている割合。投資家心理を測るために使われます。

標準偏差 : 証券・ファンド・指数の過去の値動きが平均値からどの程度ばらついているかを測定します。投資家は標準偏差をリスク (ボラティリティ) の測定に使用し、標準偏差が高いほど過去の価格変動が大きいことを示します。

プット/コール出来高比率 : プットオプションとコールオプションの取引量の相対的な比率を測定します。

インプライド・ボラティリティ (IV) : オプション価格の算出に使われる指標で、オプションの存続期間において、市場が原資産の将来のボラティリティをどの程度見込んでいるかを示します。

重要な開示事項

本資料は、ステート・ストリート・インベストメント・マネジメントの米国ETFリサーチチームが2026年1月30日時点の情報で作成した資料を翻訳したものであり、今後予告なく変更されることがあります。投資情報の提供を目的として作成しており、投資の勧誘等を目的とするものではありません。

本資料は各種の信頼できると考えられる情報・データに基づき作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。こうした情報は不完全であるか、要約されている場合があります。また、本資料に記載している各種情報・データは、特に記載のない限り作成時点のものでありこれらは市場動向やその他の状況等によって随時変動し、あるいは変更されることがあります。

当資料の二次使用、複写、転載、転送等を禁じます。

有価証券への投資には、価格変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、為替リスク等、様々なリスクが伴います。これらのリスク要因により、投資資産の市場価格が下落する場合があります。その為、投資元本を割り込む恐れがあります。投資信託およびETFを売買する際は、取扱いの金融商品取引業者の定める売買手数料がかかります。その他保有する際には、それぞれ個別に定められた費用がかかります。これらの費用には、運用会社・管理会社に支払う報酬、組入れ有価証券の売買の際に発生する手数料、監査費用等があります。これらは、運用の状況等によって変動するため、上限を示すことができません。

<登録商標等について>

S&P 500®は、S&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJII」）の商品であり、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズによる使用のためにライセンス供与されています。S&P®、SPDR®、S&P 500®、US 500、The 500は、S&P Global, Inc.またはその関連会社（「S&P」）の商標であり、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標であり、これらの商標はSPDJIIによる使用のためにライセンス供与されており、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズに特定の目的でサブライセンスされています。ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズが提供する金融商品は、SPDJII、Dow Jones、S&P、それぞれの関連会社によって後援、または販売されているものではなく、これらの当事者は、いずれも当該商品への投資の是非について表明するものではなく、インデックスの誤り、脱落、または中断について一切の責任を負いません。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号 関東財務局長（金商）第345号
加入協会： 一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会